

教育効果の高いインターンシップ取り組み事例の紹介

ー地方創生と教育効果を踏まえた、海外企業インターンシップの試行的実施から実現まで

福井大学産学官連携本部

准教授 竹本 拓治

1. 私たちのインターンシップ（構築調査から得たヒント）

ーインターンシップ先を国内企業だけでなく海外企業にも求めただけなのか？

・目的の一つは地域企業からのグローバル人材育成の要請

サポイン企業が集積する福井地域においても、タイやベトナム、マレーシアといった東南アジア新興国に生産拠点の一部を移転することの必要性が認識されており、その流れが急速化しつつあった。地域イノベーション戦略事業（2011年度～2015年度）においても、このことを意識した産業人材育成のプログラム開発を目指してきた。

・グローバル対応力に関連するプログラムの教育効果

	異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ	語学力・コミュニケーション能力	主体性・積極性、チャレンジ精神、協働性・柔軟性、責任感・使命感
事前オリエンテーションにおける準備	○		
タイ人学生と共同生活	○	○	○
協定大学等のキャンパスツアー		○	○
タイ人学生との共同調査		○	○
タイ地方および国境沿いの視察	○		○
現地在住日本人へのインタビュー	○		
マングローブ森林等における環境問題			○
歴史・文化地誌訪問	○		
日本文化のプレゼンテーション	○	○	
現地マーケットの視察	○		
地場産業の視察	○		
JICA（国際協力機構）やHIDA（海外産業人材育成協会）へのインタビュー			○
「日系企業における複数日の視察」	○	○	○

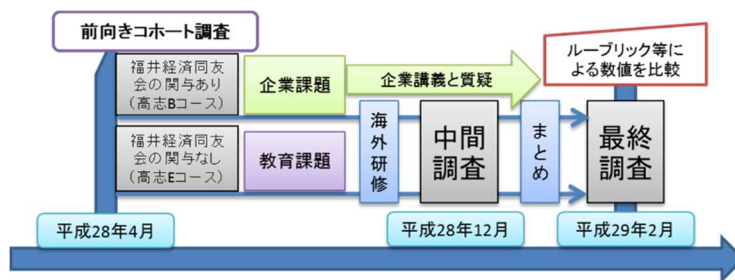
産業対応力に関連するプログラムの教育効果

	考え抜く力（課題発見力、計画力、創造力）	前に踏み出す力（主体性、働きかけ力、実行力）	チームで働く力（発想法、積極性、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）
企業訪問前の企業概要の文献調査	○		
日系企業駐在員事務所訪問における駐在員に必要なスキルを学ぶインタビュー		○	○
日系企業工場における製造管理現場の視察	○		○
現地資本企業工場における製造管理現場の視察と日系企業との差異調査	○		○
現地産学連携機関への訪問	○		○
工業団地周辺の日本人街視察	○		
日系企業における複数日の視察	○	○	○
各自の専門分野のプレゼンテーション	○	○	
JETRO（日本貿易振興機構）へのインタビュー			○
グループでの活動		○	○
「地場産業の視察」	○		

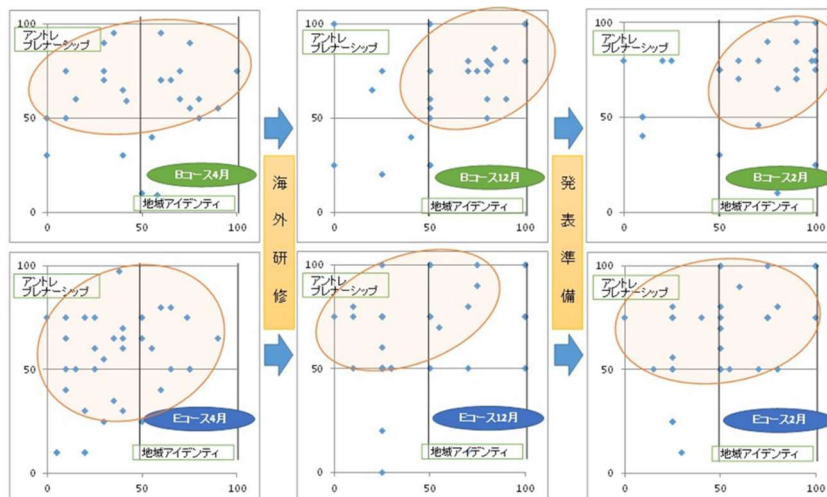
2. 地方創生と海外における教育について

ー福井経済同友会との共同で産学連携教育を実施

- ・ 2016年12月、県下の高等学校にキャリア教育の実施状況についてアンケート
福井県がリターン就職の政策を進めている。しかし、県外流出率が高いと想定される入学偏差値の上位校において、地域アイデンティティを含めたキャリア教育への取り組みが低いという結果。→将来リターンするのか？
- ・ 福井県の不思議ーイメージが悪く、実態の良さとのかい離
「あなたが住みたい「都道府県」はどこ？」最下位！（Jタウン研究所，2015年）
「全都道府県幸福度 ランキング2016版」1位！（日本総合研究所，2016年）
→県外に出ていく人にも、福井の良さを知って出ていくような教育を！
- ・ 地域の産業界から危機感「大学生では遅い、地方創生の教育は高校生から」
- ・ 福井経済同友会との取り組みの概要



- ・ 地域のアイデンティティ養成に大きな効果！



- ・ マッチング面での課題

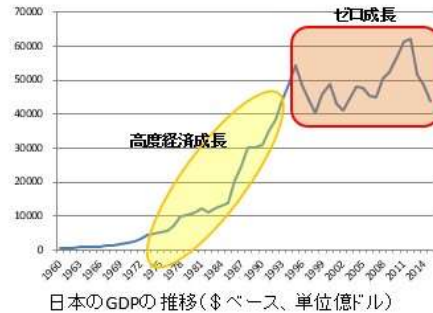
高校：企業と大学の双方に対し共通して「どこまで関わっていただけるのか、関わっていいのかわからない。」という遠慮。

地域産業界：78.2%がキャリア教育への参加の意思、うち 62.1%は積極的

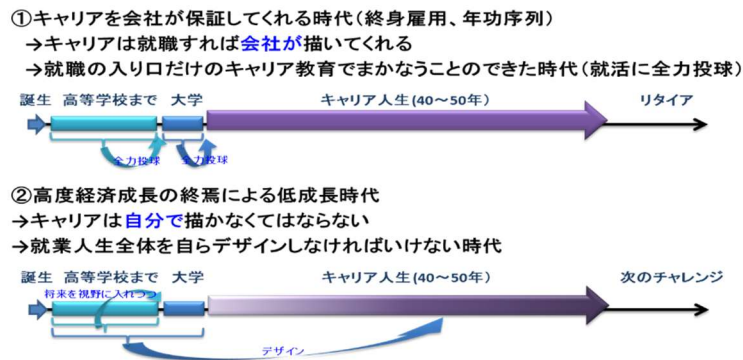
3. 私たちの考え

- これからのインターンシップの教育効果とは？
- 就業教育は 90 年代までに変化する必要があった

- ・ 効率主導型経済成長 (Efficiency-Driven Economic Growth) から
イノベーション主導型経済成長 (Innovation-Driven Economic Growth) への変化



- ・ 90 年までの日本経済の強さの原動力
 - 日本的経営の強み
 - マザーマーケットの強み
- ・ 90 年代以降の日本の負け方
 - 国内総生産(GDP)は、ほぼ横ばいで推移
 - 大量生産システムの終焉
- ・ インターンシップはどのように変わっていくべきか？



【インターンシップでアントレプレナーシップの資質を磨く】

「何かをお手本にし、計画した通りに人生を歩む」というのは理想ですが、そのような人生は稀です。なぜなら 5 年後、10 年後には、現在では予想もつかない環境の変化が起こるからです。挫折も経験するでしょう。

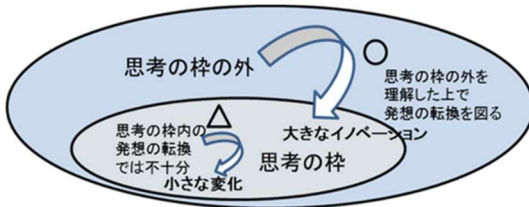
理想のキャリアを設計するだけでは、変化が訪れた時に対応できないかもしれません。失敗したら凹んで立ち直れないかもしれません。

上手くいかなくても挑戦し続けるアントレプレナーシップをもち、柔軟に対応する力こそ、キャリアの形成に必要です。(「現代社会とキャリア・アントレプレナーシップ」シラバスより)

- ・ ヨーゼフ・アロイス・シュンペーターの創造的破壊
- ・ デザイン思考による顧客の欲求への共感
- ・ チームで創造力を磨くマシュマロチャレンジ

4. インターンシップにおいても気づきの教育を与えたい

- ・「思考の枠」と「発想の転換」

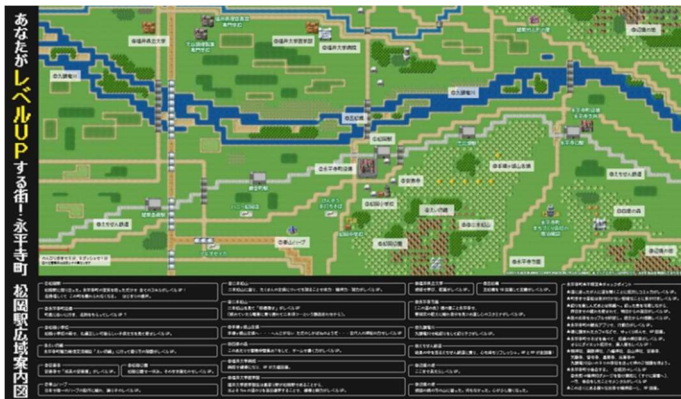


- ・フィールドワークのエッセンス

思考の枠が、生まれ育った国や環境により形成されるものであれば、それまでの日常を変えればよい。

[その他の産学連携事例] 地域企業連携 課題解決型授業
現実になるかもしれないことを提案するのは楽しい！

[その他の官学連携事例] 地域自治体との連携活動



[その他の科目「海外インターンシップ」] 国際社会調査のアウトプット例

「タイの飲食店メニューに関する新しい方法の提案」

日本とタイの両大学の教員が一致して高評価を出した理由は、現地の飲食店に対し、学生グループがメニューを作成し、お店に渡したところ、お店からも感謝され、実際に採用されたことによる。